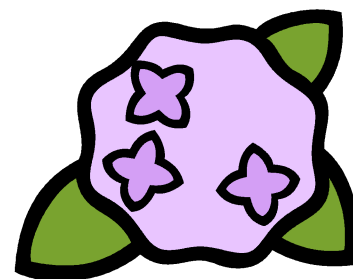


牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

- 1 全酪新報 6月1日号 全国酪農協会
第36回繁殖改善で経営向上「牛群検定活用しよう」渡邊 徹 家畜改良アドバイザー
血糖値正常値以下は対処不要 カルシウムとリンの比率に注意
- 2 デーリイマン 6月号 デーリイマン社
牛群検定の読み方(その22)
早期化進む未経産牛の初回授精日齢
- 3 LIAJニュース5月号 (一社)家畜改良事業団
新しい牛群検定成績表について(その89)
乳中ケトン体(BHB)と脂肪酸組成(FAO)
牛群検定ビッグデータ(その33)
牛群検定に参加している品種について



赤ペン 乳量編② 乳量減の要因を一頭毎に探求

赤ペンによるコメントが開始されています！検定農家に届けられる毎月の検定成績表一枚一枚に赤や青字でコメントが記載され、農家個々に改善ポイントを知ることが出来るようになりました。当団の繁殖台帳Webシステムにより、パソコン等で利用出来ます。繁殖台帳Webシステムについて、各検定組合にお問い合わせください。別途の費用は不要です。

今回は、検定成績表の1枚目の牛群成績の赤ペンを紹介しました。今回は、一頭毎に見てみましょう！

<ポイント>

一頭毎の赤ペンを見るにあたっては、注意点があります。帳票の見方ですが、乳量が下がった(または少ない)牛について、その原因を赤ペンで示しているという点です。例えば、裏面の見本を見て頂くと「乳量が少ないです」というメッセージがたくさん並んでいます。その原因として「乳房炎」も一緒にたくさん並んでいます。しかし、体細胞が高く乳房炎が疑われる牛の全部に、乳量が下がった(または少ない)というメッセージが出ているわけではありません(参照3107号牛)。

<見方>

次に、1枚目の牛群成績での赤ペンの内容を思い出しながら、各個体について見ていきます。裏面の見本では、「栄養過多」と「乳房炎」が多数記載されていることは一目瞭然です。「栄養過多」については、乳量を下げてしまっている場合には、どうしてもメッセージが出やすくなります。もし、この低乳量が常在化するのであれば、ルーメンアシドーシスなどを誘発することもあるので飼料の再設計も必要になってきます。しかし、本例においては、乳量を下げている大きな要因は「乳房炎」にあると言えます。乳房炎を改善する取組が、この農家にとって急務と言えるでしょう。乳房炎が増えてしまう要因の多くは搾乳方法や牛床管理にあります。今回紹介している乳量編では、何が要因となっているか分かりません。具体的に体細胞数から乳房炎を読み解く「体細胞数編」は次回に紹介したいと思います。

